

# 学校経営計画に対する中間報告書

石川県立羽咋工業高等学校

重点目標	具体的取組	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び後期の扱い(改善策等)
1 生徒全員の進路実現のため、全教職員が、新学習指導要領の目的に沿ってタブレット等のICT機器を日常の学習ツールとして活用し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を通じて主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組むこと、学びの質を向上させる。また、資格取得を奨励し生徒の学力向上に努める。	① 思考力・表現力・コミュニケーション力の向上のため、タブレット等のICT機器を効果的に活用し、「主体的・対話的で深い学び」を主とした授業の取組及び公開授業週間を設け、授業改善に取り組む。	1年間に実施した公開授業・研究授業等の参観回数について、教員1人あたりの平均回数が A 3.0回/人 以上 B 2.7回/人 以上 C 2.4回/人 以上 D 2.4回/人 未満	教員対象に7月に調査 1学期中に実施された公開授業・研究授業の回数  71%の教員が1回実施 22%の教員が2回実施 評価：D	今年度初めて1学期に互見授業週間を1週間行い、公開授業・研究授業を93%の教諭が実施できた。ほぼ全ての授業に管理職が参観し、授業内容を動画として保存、Google Driveまたは教員のクラウド上で各先生方と共有でき、業務中で参観できない教員も後日映像として見る事ができた。後期も引き続き各学期に互見授業週間を行い授業改善に取り組んでいきたい。 なお今回、教職員に対するアンケートの質問項目が公開授業・研究授業を実施した回数を聞いてしまい、本当に聞きたかった参観の回数となっていなかった。次回までにアンケートの項目を見直し、改めて目標到達できたか確認したい。
	② 学力向上を図るために、教科の宿題やレポートの出題方法と回数と工夫するとともに、授業と資格取得の補習指導を通して、家庭等での自学自習する習慣を身につけさせる。	宿題・レポート・資格取得などの自学自習について A 十分取り組むことができた B おおむね取り組むことができた C あまり取り組むことができなかった D 全く取り組むことができなかった	生徒対象に 7月にアンケート調査 A：60% B：36% C：4% D：0% 評価：A・B合わせて 96%	A・B合わせた評価は96%と、判定基準の90%を上回り、前年度同期(96%)同様に高い結果となった。資格取得等に向けて意識の高い生徒が数多くおり、前向きに取り組んでいることが伺える。ただし、同時期に実施した「学習状況アンケート」では、「試験期間以外の家庭学習を「ほとんどしなかった」と回答した生徒が24%にのぼっている。 後期も、資格取得も含めた家庭学習が習慣化し、学力向上につながるよう働きかけを継続していきたい。
	③ 毎月、図書便りを発行し全教員の「お薦めの本」を紹介するとともに、「朝読書週間」などの読書運動を全校的に行い、読書の習慣を身につけさせる。	朝読書週間を含む個人的な読書、授業や課題研究等の学習で、図書館の書籍を A おおいに利用した B ある程度利用した C あまり利用しなかった D 全く利用しなかった	生徒対象に 7月にアンケート調査 A：25% B：11% C：31% D：33% 評価：A・Bあわせて 36%	A・B合わせた評価は36%と、判定基準の50%に届かず、前年度同期(41%)を下回る結果となった。1学期に2年生の読書週間を実施したが、当日の朝に本を用意できていない生徒もいた。後期実施する1、3年生の読書週間では事前の生徒への周知徹底を図るとともに、授業の課題等で図書館の書籍を利用するような仕掛けを促していきたい。 また、専門図書や資格取得のテキストおよび生徒が読みたい本、おすすめの本を把握し、図書の充実にも努めたい。
	④ ジュニアマイスター顕彰のゴールド特別表彰およびゴールド・シルバー・ブロンズの取得を目指し、学校全体で多くの資格・検定への挑戦意識を高めるため、積極的な奨励と補習をより充実させ、認定者数を増加させる。	ジュニアマイスター顕彰ゴールドおよびシルバーの認定者数が学校全体で A 50人以上 B 40人以上 C 30人以上 D 30人未満	前期(7月)の認定者数を検証 前期認定者数 6人  評価：D	前期での認定者数は6人で、その内訳はゴールド取得者が2人、シルバー取得者が4人であった。昨年度は後期だけで17人が認定されており、今年度も後期での増加に期待したい。特に得点の高い「技能検定」について、これまで行ってきた受検料補助が昨年度に廃止されたが、今年度は県から補助されたため、受検者数が増加する見込みであり、ジュニアマイスターの認定者数も向上する見通しである。 後期は、資格・検定に挑戦しようとする機運が生徒の間で一層高まるよう、より組織的に資格取得を促す体制づくりに努めたい。
	⑤ インターンシップや地元企業説明会等により適切な進路選択を促すとともに、段階や時期に応じた適切な進路説明会やLH、懇談会などで進路に向けた情報提供を行なう。	各種の進路指導行事・LHや懇談会での説明や進路情報により、生徒の進路意識が A たいへん高まった B ある程度高まった C あまり変わらなかった D 全く変わらなかった	保護者対象に 7月にアンケート調査 A：27% B：40% C：4% D：1% 回答不能(よく分からない)：28% 評価：A・Bあわせて 67%	A・B合わせた評価は67%と、判定基準の80%に届かなかった。4分の1(28%)の保護者が「回答不能(よく分からない)」と回答しており、保護者に対して進路情報の提供が十分とはいえないことが明らかとなった。 後期は、1年生・2年生に多くの進路行事が控えており、段階や時期に応じた適切な進路指導を行うとともに、生徒の進路意識の高まりが保護者に伝わるようにするための手立てを検討したい。
	⑥ 進路希望の達成のために指導の充実を図る。 基礎学力の定着を図ると共に、授業でコミュニケーション力をつけさせる工夫を行う。 外部講師による講演や面接指導、全教員による個別面談・指導を充実させる。	朝学習や日頃の学習、面接指導などにより、基礎学力やコミュニケーション力が A たいへんついた B ある程度ついた C あまりつかなかった D 全くつかなかった	3年生対象に 7月にアンケート調査 A：60% B：38% C：2% D：0% 評価：A・Bあわせて 98%	A・B合わせた評価は98%と、判定基準の90%を上回り、前年度同期(98%)と同様に高い結果となった。1・2年生の朝学習では基礎学習を中心に実施、3年生は進路別に問題集などに取り組んでいる。 今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響もなく運営できているので、後期も、就職・進学試験に向けた面接指導等の充実にも全教員が協力して取り組んでいきたい。
学校関係者評価委員会の評価		○ジュニアマイスターについて、認定される生徒が激減しているのではないかと。資格を多く取得させてもらいたい。直接仕事に関係のない資格でもないよりは資格を持っている方が強みがある。 ○図書館の利用者が少ないのはなぜか。何か対策できないものか。		
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策		○この結果を受けて、資格取得推進のプロジェクトチームを発足した。部活動等との両立について意識統一を図るとともに、学校全体で資格取得に取り組む体制を検討する。 ○読書週間を活用し、図書館の利用を促進することと専門図書、資格取得のテキストおよび生徒が読みたい本、おすすめの本を把握し、図書の充実にも努める。		

重点目標	具体的取組	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び後期の扱い(改善策等)
2 心身ともに健康で逞しい(タフな)人づくりを目指し、部活動や生徒会活動の活性化に努めるとともに、規範意識を高め、いじめを見逃さない学校づくりに努める。	① 県高校総体・新人大会で団体・個人とも上位入賞を目指し、上位大会出場を目指す。	県高校総体・新人大会等で北信越以上の大会に進出した運動部の数が A 7以上 B 5以上 C 4以上 D 4未満	県総体結果  6つの部が北信越以上の大会に進出した。  評価：B	県総体等では、昨年度は5つ、今年度は各部とも健闘し、卓球部、ラグビーフットボール部、柔道部、剣道部、ソフトテニス部、ヨット部の6つが北信越以上の大会に出場した。 後期に行われる新人大会における一層の健闘を期待したい。
	② 文化部の重複加入を奨励し、各部の取組に生徒が積極的に活動し、より良い成果を収める。	文化部の活動と成果に A たいへん満足している B おおむね満足している C あまり満足していない D 全く満足していない	文化部加入生徒対象に 7月にアンケート調査 A：57% B：38% C：4% D：1% 評価：A・B合わせて 95%	A・B合わせた評価は95%と、判定基準の80%を上回り、前年度同期(98%)と同様に高い結果となった。今年は新型コロナウイルス感染症以前のような活動ができるようになったため、以前の活動を知らない生徒たちも前向きに取り組んでいる。 後期についても、さらに充実した活動を生徒とともに考えていきたい。
	③ 生徒会を中心にして行事への参画意識を高め、生徒が自主的に活動する行事にする。	生徒会行事に A たいへん満足している B おおむね満足している C あまり満足していない D 全く満足していない	生徒対象に 7月にアンケート調査 A：57% B：39% C：3% D：1% 評価：A・B合わせて 96%	A・B合わせた評価は96%と、判定基準の85%を上回り、前年度同期(97%)と同様に高い結果となった。コロナ前のように行事が行えるようになったが、その頃を知らない生徒たちも生徒たちなりに真剣に取り組んできた結果だと考えられる。 後期も多くの行事が予定されており、伝統ある行事を生徒がより満足して参加できるような行事運営を目指したい。
	④ 規則やマナーを守り、思いやりの心を育むため、生徒への声かけや観察を行い、生徒との相互理解を深め、規範意識やいじめ防止の意識を高める。	本校の教育活動や規範意識向上の取組により、規範意識やいじめ防止の意識が A 十分身についた B 少し身についた C あまり身につけていない D 全く身につけていない	生徒対象に 7月にアンケート調査 A：75% B：24% C：1% D：0% 評価：A・B合わせて 99%	A・B合わせた評価は99%と、判定基準の90%を上回り、前年度同期(100%)と同様に高い結果となった。「朝の挨拶運動」や「規範意識週間」等の取組に加えて、「身だしなみ」に関する学年集会や「校内におけるスマートフォン(携帯電話)の使用禁止」等の指導をこまめに行うことによって、生徒の規範意識やいじめ防止の意識が高まったものと考えられる。 後期も、引き続き取組を継続し、生徒の行動が変容するよう工夫していきたい。
	⑤ 保健だよりや掲示物、集会、SH等を利用して、生徒の心身の健康管理についての意識の高揚をはかる。	自分自身の心と体の健康管理について A 常に意識して生活している B ある程度意識して生活している C あまり意識せずに生活している D 全く意識せずに生活している	生徒対象に 7月にアンケート調査 A：56% B：35% C：8% D：1% 評価：A・B合わせて 91%	A・B合わせた評価は91%と、判定基準の80%を上回った。新型コロナウイルス感染症が5類になり、感染症対策が変化する中で前年度同期の95%から大きく変化していない。 後期も引き続き、「保健だより」や掲示物等で生徒への働きかけを積極的に行いたい。また朝の健康観察の方法を改善し、生徒が自分の健康管理を意識する働きかけを行い、生徒の意識の向上につながるよう働きかけていきたい。
3 社会貢献や環境に対する意識を高めるため、工業学習成果の提供やボランティア活動等を積極的にを行い、地域社会との連携を深める。	① 社会に貢献することの大切さや必要性を認識するために、地域ボランティア活動や校内外での一日一善運動を推奨する。	地域ボランティア活動や一日一善運動を通して社会貢献の大切さを A 十分理解している B ある程度理解している C あまり理解していない D 全く理解していない	生徒対象に 7月にアンケート調査 A：66% B：32% C：2% D：0% 評価：A・B合わせて 98%	A・B合わせた評価は98%と、判定基準の90%を上回り、前年度同期(96%)と同様に高い結果となった。6月の海岸ボランティア清掃では、清掃後の海岸や分別されたゴミの様子から、生徒が真剣に取り組んだことがうかがえ、社会貢献の大切さを十分理解していることが確認できる。 後期も日々の「一日一善運動」や秋のボランティア清掃などを通して、社会貢献の大切さを訴えていきたい。
	② 環境保全のこれまでの取組を向上させ、ゴミ分別や環境保全が正しく行われているかを評価し、環境に対する意識の向上を目指す。	環境保全活動(ゴミの分別・節水・節電等)に A 常に意識して取り組んでいる B ある程度取り組んでいる C あまり取り組んでいない D 全く取り組んでいない	生徒対象に 7月にアンケート調査 A：52% B：39% C：7% D：2% 評価：A・B合わせて 91%	A・B合わせた評価は91%と、判定基準の80%を上回ったが、前年度同期(92%)と比較して1%低い。実際、燃えるゴミにペットボトルや空き缶が混在しているような状況も一部において見られる。現在、普通教室から清掃用具の点検・補充を進めている。道具を整備することで掃除しやすい環境づくりを行い、自分たちの学校を自分たちできれいにする気持ちを持ってもらいたい。ゴミを分別しやすしい環境づくりを進め、節水・節電についてポスター掲示等で啓発活動を行ったりすることで、生徒の意識と実践力をより高めていきたい。
4 教職員相互の業務点検による平準化で業務を分担するとともに、協力体制を構築し、更なる働き方改革を推進する。	① 校務分掌ごとに業務内容を点検して改善に努めるとともに、ICTを活用し情報伝達のスピード化と共有化を高めることで協力体制を構築して組織的な業務の平準化を進める。	自らが担当する業務を改善するとともに他の職員が担当する業務に協力することで、業務の平準化に A 十分努力している B ある程度努力している C あまり努力していない D 全く努力していない	教員対象に 7月にアンケート調査 A：23% B：60% C：17% D：0% 評価：A・B合わせて 83%	A・B合わせた評価は83%と、判定基準の70%を上回り、前年度同期より9%数値が向上した。今年度より、地区PTAの行事の見直しや、タブレット端末を活用して朝の連絡を共有し、先生方の朝礼を毎日から週1回へ削減するなど大胆に業務の削減に取り組んだ。 後期も各課で重複している業務の見直しや作業の効率化の余地が残っている部分に着目しつつ、各分掌間で協議をするとともに、業務の平準化や多忙化改善に向けた取組を進めていきたい。
学校関係者評価委員会の評価		○保護者が学校に興味を持ってもらうために、ホームページよりLINEアプリの方が見るのではないかと。 ○社会貢献の部分で、評議員が生徒として在籍しているときから海岸ボランティア活動が続いており、新たな活動が増えているように思えない。なにか羽咋工業高校独自の他の学校がまねできないアイデアはないものか。		
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策		○一斉メールやGoogleクラスルームを活用し、学校の情報を適時・適確に伝えることにより、学校に興味・関心を持ってもらえるように工夫したい。 ○ボランティアについては、一日一善運動やあいさつ運動も新たな取り組みをしている。その内容について各課と検討していきたい。		

